



# ビタミン nurse



## ご挨拶

自治医科大学看護学部

学部長 野口 美和子

今年4月に102名の新入生を迎えました。看護学を学ぶ仲間として心から歓迎いたします。そして、これまでにご支援下さいましたご家族の皆様、ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護学はあらゆる年代の人々や家族、そして様々な健康状態の人々がその人らしく生き、成長できるよう健康を支援する実践的学問です。又、人々の生活と健康に影響を与える生活観、価値観、環境や医療も時代とともに変化していきます。従って、看護専門職は生涯学習が必要なのです。看護学部のカリキュラムでは早くから看護実習を取り入れ、一人一人の患者様を支援するために自ら学び求めるという専門職としての学習態度を育成しようと試みています。しかし、受験勉強や高校の学習ではどちらかという一般知識を習得することが中心です。そのため実践を通して自ら求めて学ぶ学習態度への転換はとても厳しいようです。この4月に3年生となった一期生は苦勞しながらもようやく専門職の学び方を身につけたようで生き生きと輝いています。二期生は看護学の授業も多くなり、はりきっています。三期生の102名はとても元気でクラスも徐々にまとまってきており、又、先輩もいますので、華麗に変身してくれると期待しています。

学習、クラブ、私生活の時間配分を上手にして、よく遊び、よく学んで下さい。そして生涯にわたり学び合い、助け合う友人をたくさんつくって欲しいと思っています。



学部長と学生の懇談会

式典風景

## 新入生（クラス委員）挨拶

3期生 青木 由貴子

こんにちは。この度クラス委員長になりました青木由貴子です。自己紹介をさせていただきます。名簿番号1番です。埼玉県出身で、高校のときは水泳部に入っていました。今は空手部なので、よく道着のまま小走りで移動していると思いますので見かけたら声をかけてくれたらとても嬉しいです。しかし最近のわたしの悩みは、上腕二頭筋が発達しすぎてドラゴンボールZのような体つきになってきたことです。まだ始めて2か月なので、4年後が不安でなりません。

さて、わたしがクラス委員長になった理由は「なるべく早くクラスのみなどと知り合って友達になりたいな」と思ったからです。そして、これはきっとクラスの誰しもが同じことを考えていると思います。まずは6月11日にバーベキューをやるということで、クラス内の交流の場をバックアップできたらな、と思って立候補しました。その他クラスへの連絡係など、随時活動の予定です。相方である篠原裕美さんとは力を合わせて頑張るので、みなさんご協力お願いします。とにかく、バーベキューが楽しいものになるようにみんなで成功させましょう。みなさんのキャンパスライフがより充実したものとなるように願いつつ、努力していきたいと思っています。これからもよろしく願います。（バーベキューは生憎の天気でしたが、皆さんの協力で大成功でしたね）

3期生 篠原 裕美

「もう一週間が終わり？」と、毎週のように呟いてしまうほど、入学してから時間の経過の速さに驚かされる。今の生活は、高校のときの生活と比べると大きく変わった。朝は洋服選びとの格闘から始まる。高校のときの制服が懐かしく思える。カーテンをあげ、朝の陽差しとともに目に入ってくる病院。太陽の光に照らされ、よりいっそう白く、眩しく見える。寮の部屋から一步出れば飛び交う、「おはよう」のさわやかな声。ほんの数ヶ月前は「見知らぬ人」であった友達とも、一緒に過ごす時間が長いからか、もうずっと前からの友達のように思われる。学校の大きな教室。初めて廊下を通ったときは、窓が大きく、天井が高いと思ったが、今ではあたりまえの風景になりつつある。授業が終われば盛んに行われている部活に行き、先輩たちに負けじと頑張る。そんな新鮮な毎日が、今の私には非常に刺激的で大好きである。その一方で、大学は自分がきちんと目標をもち、それを見据えて生活をしなければすぐに終わってしまうものと思う。ちょうど車を運転するように、目的に到達するためどんなに遠回りしても、どんなに前の車がゆっくり走っていても、どんなに後ろの車が速くしろ、とせかしても、自分の意志をきちんともっていかなければならない。そして、失敗を恐れず、自分の可能性を信じ、大学生活を送りたいと思う。今私たち一年生はまだ、エンジンをかけ始めたばかりであるのだから。



バーベキュー大会



桜の名所？ 看護学部校舎

## 歓迎の言葉

平成15年度寮自治会長 1期生 三谷 奈々

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

皆さんが入学して早くも3ヵ月が過ぎようとしています。大学生活には慣れましたか？

寮生の皆さんは寮生活にも慣れましたか？4月、緊張した表情で入寮して来られた皆さんを案内した日を懐かしく感じます。看護学生寮では週末などひとつの部屋へ集まってご飯を食べたり、お誕生日会や鍋パーティー、テストや実習の打ち上げをしたり、たまには夜遅くまで悩みや夢を語りあったりと、同じ学年同士での楽しみもたくさんあります。また、風邪をひいたり困った時や悩んだ時には相談ののってくれ、テスト前には情報をくれる部活やBSSの先輩という縦のつながりもあります。

4月、皆さんが入学していらした時、学部になって2期生3期生となるにつれ、本当に全国各地からの入学生が増えたとは感じました。やはり自治医大には寮があるためにこれだけ全国からの入学があるのかと思います。また、医学部も全国各地から集まっています。同じ学年や県同士だけではなく、様々な学年の様々な出身の人たちと交流することで今まで見えなかった世界がきっと広がると思います。自治医大のこの最大の特色を生活の中でうまく生かし、勉強だけでは得ることのできない多くのことを吸収し意味のある大学生活となるよう、一緒に過ごしていきましょう！！

1期生 鈴木 和

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ、大学生活にも慣れてきた頃でしょうか？私は、現在4ヶ月弱に及ぶ実習の真っ最中で、悪戦苦闘しています。これから学年が上がるにつれ、看護の専門性が問われるようになり、「看護って大変だな。」と思うことがあるかも知れませんが、実際に患者さんと接してみると、勉強になることがたくさんあり、魅力的な領域であると思います。

また、自治医科大学の部活動やサークル活動は盛んで、学年や学部を越え、さまざまな人と出会える素晴らしい場所です。私は、野球部に所属し、週3日の練習で汗を流しています。部活で出会った仲間は、一緒にご飯を食べに行ったり、プライベートでも色々な相談に乗ってもらっていて、部活に入って本当に良かったと感じています。

大学生活をいかに充実させるかは、皆さん次第です。何か困った事があったら、いつでも先輩に声をかけてください。お互い楽しい大学生活を送りましょう。

2期生 麓 杏奈

新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。

厳しい受験を乗り越えられた今、これからの大学生活に夢や希望に満ち溢れているのではないのでしょうか。自由で責任のあるこの時は、今後の人生でかけがえのない日々となることだと思います。

私はこの一年間自治医科大学での生活を通して、様々な事を学び、そして多くのことを吸収してきました。自治医科大学は附属病院をはじめとする勉学に素晴らしい施設や設備が整っていて、また緑多い広大な敷地でのキャンパスライフは人間性を豊かに育てあげられる環境であると思っています。そして自治医科大学の先生は勿論、どの先輩もみな、どんなことにでも気軽に相談出来る頼もしい存在であるので、何か困った事があったら相談してみてください。また、102人の仲間と4年間の時間を共有する中で、喜びや苦しみを共に分かち合えるような、素晴らしい友人にきっと出会えることだと思っています。

自治医科大学は部活動、その他課外活動等も盛んなので、是非そのような機会を利用して、健康で充実した毎日を送ってください。

これから先には、今までに経験をしたこのないような体験をするかもしれませんし、また辛くて大変なこともあるかと思いますが、そのような困難に打ち勝ってこそ得られる喜びや感動を通して、今後の成長を遂げていってほしいと思います。

若さ溢れる学生時代にこそ、様々な事に積極的にチャレンジしていきましょう！

2期生 塚本 浩章

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。(待ってました！後輩の男の子(笑))そろそろ時間割も覚えて学校生活にも慣れてきましたか？自治医科大学看護学部は、一昨年に短期大学から四年制の大学となった新しい学校です。カリキュラムも充実していて、広い敷地内には自然にあふれ



新看護学部学生寮！

ており、主な実習先となる附属病院や多くの蔵書や視聴覚資料がある図書館もあります。

去年から学生サポートチームという学生と先生の合同チームができました。新入生の皆さんも積極的に参加して、自分たちでより良い大学を作っていきましょう。また、寮で共同生活をしている人やアパートで一人暮らしをしている人、自宅から通っている人も、是非沢山ある部活やサークルに入って大学生活を楽しんで下さい。この大学で、私達が看護という同じ志を持ってめぐり合えたのも何かの縁なので、友達を沢山作ると楽しいと思います。

看護学は多くの専門科目と教養科目があります。興味のある選択科目は積極的に履修して自分の興味を深めてみて下さい。先生方も私達が質問に来るのを待っています。そして、すでに目標が決まっている人も、はっきりと決まっていなくても、これからの学習の中で自分がしたいことを見つけられて下さい。卒業後は、様々な分野での活躍が期待されています。しっかりとした幅広い知識と技術を身につけて、人々に「ありがとう」と言ってもらえるような看護職をともに目指しましょう！

## へき地を支援する診療所・病院見学紹介

竹田津文俊・篠澤 幌子

自治医科大学看護学部の教育目標は、自治医科大学の建学の理念を看護の分野で実現させるために高い資質と倫理観を持ち高度医療と地域看護に従事できる看護職の育成を目指しております。

そこで、2003年は、へき地診療所やそれを支援する病院における看護活動及び地域で暮らす人々の生活を知ることが目的に、(社)地域医療振興協会の施設である日光市民病院、共立湊病院、伊東市民病院をはじめ、県内の日光市立奥日光診療所、栗山村立湯西川診療所のほか沖縄県立八重山病院附属波照間島診療所、利尻島国保中央病院、国保町立ゆきぐに大和総合病院、藤沢町医療福祉センターなどを見学しました。

今年度も8月から9月にかけて全国へき地診療所や診療所を支援する病院などの見学訪問を企画しています。

日光市民病院は、年間600万人の観光客を迎え世界遺産として登録された日光東照宮等のある日光市にあり、この地域唯一の100床の病床数をもつ病院で平成12年4月に開院しています。

また、西吾妻病院は年間200万人の観光客を迎える草津町や嬭恋村、長野原町、六合村の4つを合わせた西吾妻地域住民の2次医療を担うこの地域唯一の111床の病床数をもつ病院で平成14年2月に開院しています。

どちらの病院もへき地診療所を支援し、巡回診療を行なうなどへき地中核病院としての機能を担っております。

これらの病院では、地域で生活する人々のあらゆる健康レベルに対応した看護や在宅での看護、診療所看護職と連携した看護が行なわれています。病院の看護部長さんの言われた一言「私達の病院は地域の人々の暮らしを捉えた看護の実践ができる病院です。」に感動しました。



半月峠からみた中禅寺湖と男体山



(社) 地域医療振興協会 日光市民病院



(社) 地域医療振興協会 西吾妻福祉病院

## 地域医療体験記

### 2期生 飛田 敦子

自治医科大学に入ったからには地域医療を見学したいと考え、昨年、以下の二つを訪れました。

5月に行ったのは新潟のゆきぐに大和総合病院。病床数199床の地域中核病院です。全国的にも珍しい訪問リハビリ、その他に往診、訪問看護、デイケア施設、ホームヘルパー、ケアマネージャーの仕事を見学しました。看護師、保健師としての経験を生かして病院、市役所、町民宅を飛び回るケアマネージャー、姑の愚痴から子どもの不登校相談まで一手に引き受ける保健師、各家庭の事情にどこまで踏み込むか悩む訪問看護師。切り口は「看護」や「保健」であっても内容は深く、多岐にわたっていて、彼らの情熱を支える院長の姿勢にも心打たれるものがありました。もうひとつは8月に訪れた医師1名、看護師1名、事務2名で村民の健康を支える栗山村診療所です。医師は二年毎に交代していくため看護師が重要な役割を担っています。医師の交代当初、遠慮がちな村民に対し「今年の苗付けはうまくいった？」などの世間話から徐々に病気の話に入り、医師に早く馴染んでもらう、また、医師の傍らではなく患者の側に立つなど細やかな心配りをしていました。

実習で見た看護職との違いに驚きましたが、反面、仕事の幅広さ、そこにやりがい、可能性を見出す看護、保健職の柔軟性、発想力をみることができました。「地域医療」という枠組みを超えて看護、保健職の仕事の面白さに触れることができ、大変有意義な体験となりました。

### 2期生 伊藤 実緒

今回、実際にへき地医療の現場を見るために、日光へ行くことができ、大変勉強になりました。日光市民病院は、設備・スタッフも充実しており、また診療科も多く、都市にある病院と比べると変わりはありませんでした。一方、奥日光診療所も明るい雰囲気、人々が訪れやすいという印象を受け、へき地医療という言葉が当てはまらないように感じました。受診に来る患者さんは、日光という有名な観光地であるがゆえ、地元の人々に加え、観光客が多いということが特徴で、標高が高いため具合が悪くなったり、動物に襲われたりしてケガをした人が診療を受けに来るそうです。診療所の先生は、診療所の二階に住んでおり、基本的には診療時間が決まっていますが、緊急の場合にはいつでも診察するそうです。限られたスタッフでとてもスムーズに医療の提供がなされていることに感心させられました。

私の想像していたへき地医療は、診療所が単独

で少ない医療機材を使って、どんな患者さんにも診療所のスタッフだけで対処していかなければならないということでした。しかし、実際は日光市民病院のような母体となる病院との連携が密にとられており、さまざまな事態に対処できるようになっていることを知りました。自分が看護師としてへき地医療への携わり方として、最前線の診療所で働くことのほかに、診療所を支える病院で働くことも、へき地医療へのひとつのかかわり方なのではないかと感じました。

それは、診療所の先生が、市民病院の看護部長さんを、心強い存在と言われていたことから感じました。へき地医療で有名な自治医科大学へ入学したからこそできたこの貴重な体験を、将来の進路選択へ役立てていきたいと思います。お忙しい中、私たちの学習に快くご協力くださった、日光市民病院・奥日光診療所の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

またこのような機会があれば、ぜひ参加したいです。

### 2期生 五井 紀江

私は栃木県出身ですが、日光市立奥日光診療所に見学に行った時初めていろは坂を登りました。いろは坂を登っていく間、周りは樹木しかなかったの、きっと日光市立奥日光診療所の周りも同じかと思っていました。だから、いろは坂を登りきったときいきなり店や観光地がたくさんあったのを見たときは、思わず「ここ、の上だよな？」と聞いてしまいました。私は病院にはよくお世話になっていましたが、診療所は見ただけではありませんでした。そのため、「着きましたよ」と言われても、「どこだろう。前は普通の家だし…」と聞いてしまいました。

初めは、どうしてこんな山の上に診療所があるのか理解できませんでした。しかし、話を聞いて改めて理解できました。山の上で事故が起こったり、病気になったり、けがをした時、山の上に診療所がないと日光市民病院まで山を下りなくてはなりません。急いで下山したくても、途中にいろは坂があります。ヘリコプターを使っていくよりは、山の上に診療所があったほうが便利だし合理的です。いつ診療所に行っても医師がいるので、地域住民も安心して生活できると思います。診療所はあまり大きくないのにたくさんの器材が揃っていてすごいと思いました。最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、いろいろな説明やお話、また診療所内の見学をさせていただき、大変ありがとうございました。

## ク ラ ブ 活 動

### 少林寺拳法部 2期生 益子 裕子

私たち自治医科大学少林寺拳法部は、3年前の平成13年4月に同好会としてスタートし、昨年の平成15年に部活となり、新たなスタートを切ったばかりです。メンバーは、平成16年4月の時点で8名で、内、男性4名、女性4名です。メンバーのほとんどが初心者で、これまで全く武術を習ったことがなかった人たちばかりです。

少林寺拳法は、単なる武道やスポーツではなく、身体と心の両面を鍛え、本当に自分が頼りとするのできる自己を確立し、さらに、自信と行動力を身に付け、慈悲心と正義感を養うことを目的としています。また、少林寺拳法は護身術としても用いられ、「もしも」の時の備えとして身に付けておくという意味でも、とてもためになります。

部活動は、火、金の週2日で、火曜日は19時30分から21時まで、金曜日は18時から21時まで練習を行っています。

私たちの部は、創部2年目とまだ歴史が浅いので、歴史がない分、慣習や伝統もなく、自由に活動しています。

大学に入って何か新しいことがしてみたいという方、今まで武術を習ったことはないけれど、護身用に少林寺拳法を習ってみたいという方、少林寺拳法そのものに興味がある方、ぜひ、一度見学に来てみてください。もちろん、経験者も大歓迎です。皆さんのお越しを、部員一同心よりお待ちしております！

### ピアサークル 2期生 福田 明菜

私は、ピアサークル、J-StarsPeerの部長をやっています。私たちピアっ子は、4日間の養成講座を受け、ピアカウンセラーとして、思春期の子たちを対象に同じ目線に立ち悩み事を聞いたり、一緒に考えたりします。私たちが、問題を解決するのではなく、本人が自分で答えを見つけられるように導いてあげるようにしています。また、若者の妊娠、中絶、性感染症などの問題がとても多いという現状があります。今、雑誌などで様々な性の情報が行きかう中で私たちが正しい情報を伝えることで、何が正しくて何が正しくないのか自分で見分ける力をもってほしいと考え、そのため積極的な活動をしています。

私たちの主な活動として、年に2回小山市の高校生を対象にピア活動を行っています。内容としては、自分の将来設計を立ててもらったり、避妊やSTDなどの情報提供をしたりして自分や自分にとって大切な人を見つめてもらい、大切にしてほしいことを伝えます。今年私たちが伝えようとしたことは、「treasures～わたしとわたしとあなた」。自分と自分にとって大切な人を見つめてもらい、自分を含め自分にとって大切な人を宝物のように感じてほしいという私たちの気持ちを伝えてきました。また今年の夏休みはオーストラリアとニュージーランドに研修に行きます。日本だけでなく世界に目を向け、多くのことを体で感じ、学んできたいと思っています。そして、今後のピア活動に生かしていきたいと考えています。

## ボ ラ ン テ ィ ア 活 動

### 1期生 竹垣 僚子

私たちボランティアサークルは、ボランティア活動を行う様々な団体が集合したものであり、それぞれに特徴的な活動を行っています。

現在は、障害のある子もない子も一緒になって楽しくおもちゃで遊ぶ「おもちゃの図書館」、不登校の子供達と交流する「メンタルフレンド」、町の給食サービスのお手伝いをする「給食ボランティア」、お年寄りのお宅を訪問する「独居老人友愛訪問」、車椅子バスケットボールチームの練習・試合のお手伝いをする「車椅子バスケット“バスターズ”」、筋ジストロフィー患者さんの講習会や療育訓練に同伴し手助けする「筋ジス協会ボランティア」、病棟内の本棚の整理や本の取り替えをする「患者さん図書サービス」の7団体が主に活動して

います。また、医大をあわせたサークル登録者は全部で100人を超えており、学生のボランティア意識の高さが伺えます。

これらの活動を通して、ただ学校に通っているだけではあまり出会う機会のない周辺地域の方々、私たちとは全く違う生き方をしてきた方々とふれあうことができ、自分では思いもよらないようなものの考え方や視点の違いを知り、またコミュニケーションの大切さも学べます。活動に参加するのはとても面白く、楽しい時間を過ごせますが、それ以上に様々なことを学びとり自分自身を大きくしてくれる、そんなサークルです。

いつでも誰でも空いた時間に参加する事ができるので、ぜひ登録して下さい。



## 各領域の研究室・教員紹介

### \*基礎看護学\*\*\*\*\*

教授 松田たみ子

基礎看護学領域は、看護を学ぶ学生の皆さんが、入学して最初に触れる看護の専門科目を担当しています。看護学原論は看護の基盤となる概念や定義の理解、および看護実践に共通して理解すべき内容を含む科目です。基礎看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはそれぞれ看護場面に共通する技術、日常の生活行動を援助する技術、診療に関連する援助技術を主に含む科目で、講義および演習を通して、学内で実践的に看護技術を学びます。これら学内の学習の進行に併せて、附属病院での看護実習があります。1年次後学期の基礎看護学実習Ⅰでは「医療の場におけるコミュニケーション機能」、2年次後学期の基礎看護学実習Ⅱでは「生活援助技術を用いた看護実践の基礎」を学習します。

入学直後から2年生の後学期までの期間に、あらゆる看護実践の際に用いる看護基本技術を学習していく学生の皆さんの姿に刺激され、授業や演習内容を充実させなければならないという使命感に燃え、基礎看護学担当教員一丸となって教育方法の工夫や研究に取り組んでいます。

教員構成は、教授：松田たみ子、講師：里光やよい・大久保祐子、助手：亀田真美・川上勝・菅野こずえの6名です。領域としては仕事に対する姿勢は厳しく、しかし発想や意見交換は自由という雰囲気の中で、各々の豊かな個性を發揮して励んでいます。



### \*地域看護学\*\*\*\*\*

教授 篠澤 侁子

地域看護学は都市や農村あるいはへき地などで生活する人々の健康や生活を理解し、住民自ら健康や生活の質の向上が図れるよう、健康や生活、住みやすい生活環境づくりを支援する知識・技術を教育し研究する専門領域です。

地域看護学専門領域を担当する教員は、春山早

苗助教授、岸恵美子講師、鈴木久美子助手、佐藤幸子助手と私、篠澤の5名がおります。

本大学看護学部の教育理念である地域に貢献できる看護職の育成をめざして教育を展開しております。

地域看護学の教員が主に係わる授業科目は、1年次は「地域の生活と健康」、2年次は「地域看護学概論」、3年次は「地域看護活動論Ⅰ」「地域看護活動論Ⅱ」「フィールド実習」、4年次は「地域看護活動論」「地域保健論」「地域看護学実習」です。

特に、今年度の2月に実施される「フィールド実習」は、在宅で生活されているさまざまな健康レベルにある人々を支援していくために行なわれている看護の役割や機能などを学びます。訪問看護ステーション、病院の外來・救急外來、小中学校・企業の健康管理室、そしてへき地診療所やその診療所を支援する病院などにおいて実習を行い、学生が地域社会で生活を営む人々に対する看護を学び、看護において追求すべき課題が考えられることを目指しています。

研究については、5名の教員が一丸となって、平成14年度から着手したへき地における看護活動の特性や課題などの研究を行なっています。栃木県の奥日光、湯西川、群馬県の六合村、長野県の王滝村、沖縄県の波照間、渡嘉敷島、東京都の青ヶ島など全国のへき地の現場に出働く看護師や保健師の活動を調べ、よりよい看護を目指していっしょに研究に取り組んでおり、このことを学生の教育に役立てたいと考えています。

今年度は、発展させるべき看護活動やサポート体制などについて研究を進めているところです。また、後期からは、「保健・看護研究セミナー」という授業科目が始まりますので、学生の皆さんとへき地における看護について語りあったり、考えたりすることを楽しみにしています。



## 年間スケジュール

### 前学期

4月

- 4/9 入学式
- 4/12 授業開始(1年)
- 4/29~5/5 春季休業
- 5/14 大学創立記念日
- 7/27~30 定期試験

7月

夏季休業  
8/2~9/26

### 後学期

10月

- 9/27 授業開始
- 10/8~10 学園祭
- 12/24~1/4 冬季休業
- 2/22~25 定期試験
- 3/22~ 学年末休業

3月



## 海外紀行

~南の島から「医療」を見つめ直す~

講師 余語 琢磨

みなさん、こんにちは。私の専門は文化人類学といって、仕事の内容をわかりやすくいえば「地域社会を対象とする調査屋」です。国内はもとより、東南アジアの発展途上国へ毎年かけています。

なにを調べるのかって？ たとえばバリ島には、カゼや糖尿病などの「自然の病い」、ねたみや呪いからおきる「人による病い」、神や祖先への祀りを怠るとおきる「神霊による病い」の3種がある、など…。このような考え方(病気観)が、世界でもっとも身体・精神障害者に対する偏見が少ないとされる人々の背景にあるのは、とても興味深いことですね。

えっ、そんな「迷信」に満ちた地域はアヤシイ？ そうおっしゃいますが、「先進国」の日本でも、健康や疾患に関する科学的な知識より、ふだんの習慣や好みや仕事を優先したり、「みのさん」の紹介したものが翌日売り切れたり、あまり根拠のない健康グッズや治療法を利用している人って多いじゃありませんか。

実際の「医療」とは、その純粋科学のイメージとはうらはらに、すぐれて社会文化的な現象なのです。人類学者の調査は、いまや国際医療協力



バリ島の寺院で調査中の私



バリ島の影絵芝居

に欠かせない存在ですが、成果はそこにとどまりません。個々人の「病いへの対処のしかた」には、地域ごとの特徴とともに、社会の違いをこえて似通った点があり、「人と病いの関係」そのものを解き明かす研究がすすんでいます。

調査対象を「鏡」として、私たちの社会において「病いを看る」方法を見つめ直すこと、異境の濃い闇のなかでこそ生まれる思索もある、といったら格好をつけすぎでしょうか。



儀礼に集うバリ島の人々

## 編集後記

看護学部が開設して3年目。学生の大学生活や看護学部の教育、教員の活動等を保護者の皆様や関係者の皆様方に広くお伝えしようと、この誌は創刊されました。看護学部の歴史を刻む出発点となる創刊号に携われたことを、編集委員一同はとても光栄に感じています。「vitamin N」という名称は、学生、教職員を対象に募集した中から選ばれました。ビタミンのように Nurse を目指す学生や学生を支えて下さる皆様にちょっとした元気を与える存在になりますように、という意味がこめられています。看護学部と共にこの誌が末永く続くことを祈っております。

編集委員代表 春山早苗 里光やよい

### ビタミンN 創刊号

発行日 平成16年6月  
発行 自治医科大学看護学部  
〒329-0498  
栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-159  
TEL 0285-58-7408